

新宿消防署から

総合的な防火防災診断

総合的な防火防災診断

1 総合的な防火防災診断とは

- 地域が一体となった高齢者等災害時要配慮者の安心、安全の確保を主眼としています。
- 客観的なデータに基づき危険要因を抽出して診断項目を設定し、各家庭の危険度を定量的に判定します。
- 診断項目は「火災」「震災等」「家庭内事故」を設定しています。

(診断項目)

- ・火災発生危険（たばこ・こんろ・電気配線等）
- ・住宅用火災警報器・消火器等の有無、維持管理状況
- ・火災発生時の対応に係る意識 等
- ・家具転倒防止、落下、移動防止対策の実施状況
- ・地震発生時の意識・行動
- ・非常持ち出し品の準備、町会自治会との関わり 等
- ・転倒危険事故、浴室内事故危険
- ・熱中症対策、一酸化炭素中毒事故危険 等

- 区市町村、町会自治会、民生児童委員、地域包括支援センターなど福祉関係機関等と連携して実施します。
- 消防職員が原則として対象者宅内に立ち入って危険性をチェックします。
- 結果に基づいたアドバイスの実施、関係機関との情報共有による改善の促進を行います。（別紙1）

2 地域における協力体制づくり

総合的な防火防災診断では、今まで以上にきめ細かい防火防災指導によって危険要素を排除することで、高齢者等世帯の居住環境の安全化が推進されるなどの効果と併せて、地域が一体となった高齢者、障害者等の安全対策の一助することを目的としています。

その結果として地域における自主的な見守り活動等へ発展させ、地域全体の安心安全への機運の高まり、防災行動力の向上につなげていきます。

3 連携が望まれる福祉関係機関等

- 区市町村の福祉関係部局、防災関係部局
- 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）
- 社会福祉協議会
- 民生児童委員（民生児童委員協議会）
- 障害者支援センター
- 町会自治会
- 電気・ガス事業者 など

4 福祉関係者等による危険度のチェック方法

福祉関係者等が普段実施している見守り活動において、予備診断シートを活用して危険度チェックを実施し、必要な改善指導を行ってください。（別紙2）

また、改善できない場合などは、見守り活動での繰り返しの指導や消防署へ連絡をいただき、総合的な防火防災診断の実施にむけたご協力をお願いします。

5 地域で見守る自主的な取組事例

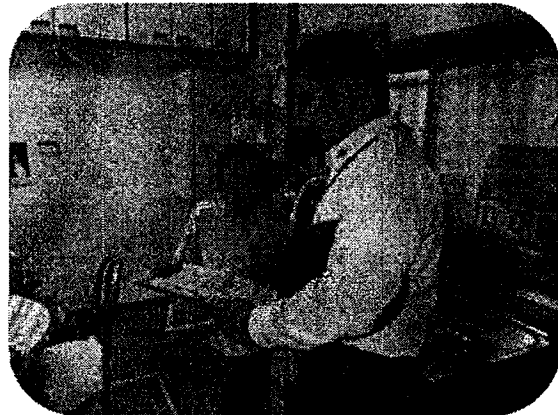
（事例1）

A自治会では、自治会内に高齢者等の「見守り隊」を結成し、日頃からの声かけやイベントなどへの参加促進を通して、災害時の協力体制づくりを進めています。

（事例2）

B自治会では、「地域福祉お助け隊」を発足。防火・防災に係る技術を学び小さなお助け活動を実施しています。

独居老人が参加できる地域の防災コミュニティを目指し、防災講演会を企画するとともに、家具の転倒防止器具、飛散防止フィルム、住宅用火災警報器の取付などを無償で行っています。



6 主な奏功事例

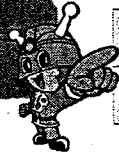
No.	事例	内容
1	出火防止	寝室の布団の横に置いてある電気ストーブと布団の距離が近かったため、使用する際は離すように指導するとともに民生児童委員からも家族に話すよう依頼した。
2	電気配線関係	ねずみにかじられたような跡の配線を発見し、火災発生の危険があるため、その場で東京電力職員により、配線を切り詰めて改修した。
3	地域包括支援センターとの連携	地域包括支援センター職員と連携して実施した対象者宅の大型タンスが未固定だったため、同行したセンターの見守り支援担当者に詳しく固定方法を伝えたところ、担当者からポール式とストッパー式を活用した家具の固定を実施したとの報告があった。

防火防災診断 結果のお知らせ

防火防災はとても大切です。今すぐ対策を！
「対策のアドバイス」を参考に改善しましょう






診断を受けても火事や災害が起きないとは言いきれません。これからも注意しましょう

火災



よく備えています
 対策をとります

火災をおこさないために

- たばこ 1 寝たばこはやめましょう 
- 1 灰皿に吸いがらをためないようにしましょう
- ストーブ 2 洗濯物など燃えやすい物を近くに置かないようにしましょう
- 2 ストーブは説明書をよく読んで正しく使いましょう 
- こんろ 3 こんろのまわりは、いつもきれいにしておきましょう
- 家電製品 4 古くなり、不良個所のある家電製品を使うのはやめましょう
- コンセント 5 コンセントはこまめに掃除しましょう 
- 電気配線 6 コンセントに負荷がかかりすぎないように
タコ足配線はやめましょう
- 仏壇など 7 ろうそく・線香をつけたまま
その場を離れないようにしましょう
- 防災品 9 カーテン・シーツなどは防災品を使いましょう 
- 住警器 13 住宅用火災警報器を設置しましょう
- 家の外 8 家のまわりは整理整頓しておきましょう 

もし火災がおこったら

- 11 無理に初期消火をしようとせず、火が天井に回る前に避難しましょう
- 12 すぐに隣近所に知らせて、119番通報をしましょう


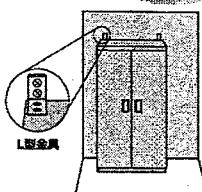
診断日 平成 年 月 日 様
東京消防庁 消防署 担当：

地震



よく備えています
 対策をとります

地震にそなえて

- 16 寝る場所の近くに家具を置かないようにしましょう
(寝ている場所に倒れてこないように、位置・向きを変えましょう) 
- 17 家具類の転倒・落下・移動防止をしましょう
- 21 非常持ち出し品を準備しましょう
(3日分の医薬品、飲料水、食料など)
- 27 手助けをお願いできる人を確保しましょう 

もし地震がおきたら

- 18 地震だ！ まず身の安全
(揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動しましょう)
- 19 けが等を防ぐために、スリッパ・軍手・笛などを備えましょう
- 20 一時集合場所、避難所まで歩いて行き、確認してみましょう

その他の事故



よく備えています
 対策をとります

転倒やつまづきに注意

- 23 すべりやすい敷物ははかないようにしましょう 

入浴中の事故に注意

- 24 体調の悪い時や飲酒した後の入浴は避けましょう
- 24 入浴の前後には水分補給をしましょう

熱中症に注意

- 25 冷房や冷却グッズをつかきましょう
- 26 夏場はこまめに水分をとります

一酸化炭素中毒事故に注意

- 26 ストーブなどを使用するときは、じゅうぶん換気しましょう

→ うら面の対策のアドバイスもご確認ください。

対策のアドバイス

火災編 (かさいへん)

◎ 防災品を使いましょう

方がー、火が衣服に接しても、燃え広がりにくい素材で作られている防災品の寝具類 (シーツ、枕カバー、布団カバー)、エプロン、割烹着、アームカバーなどを使用しましょう。

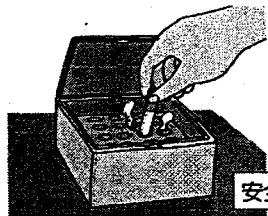


写真左：防災品の割烹着
写真右：通常の割烹着

防災品は、火が接しても普通の製品に比べて、火がつきにくく、燃えにくい製品です。調理の際などに使用すると安心です。

防災品に関する問合せや、販売店などに関する問合せは…
(問合せ先) 公益財団法人 日本防災協会
電話：03-3246-1661
FAX：03-3271-1692
URL：http://www.jfra.or.jp/

◎ たばこ火災対策のヒント



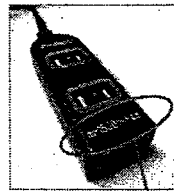
安全な灰皿の例

吸いがらが外に落ちることを防ぐものや、吸いがらの炎が自然に消えるなどの機能を備えた灰皿が市販されています。

たばこ火災に備えて、大きめの灰皿に水を入れて使う、吸いがらはこまめに清掃するほか、このような機能を備えた灰皿を使うとより安心です。

ホームセンター等で購入できます。

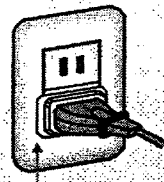
◎ 電気火災対策のヒント



許容電流の表示例

テーブルタップを使用する際には必ず許容電流を確認しましょう。

使用できる電流量はテーブルタップに記載されているので、それを超えない範囲で安全に使用しましょう。



コンセントカバー

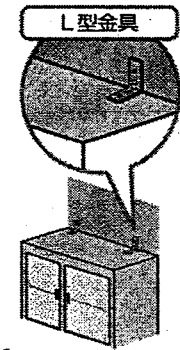
コンセントにほこりが溜まるのを防ぐカバーなどが市販されています。

100円ショップやホームセンター等で購入できます。

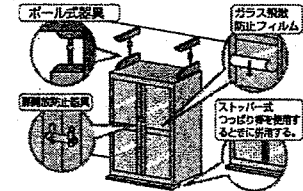
地震編 (じしんへん)

◎ 家具類の転倒・落下・移動防止対策をしましょう

家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒や落下の防止措置をしておきましょう。また、就寝中の地震発生に備えて寝室の家具は、優先的に転倒防止対策を実施しましょう。重いものは、下に収納することで家具の重心が低くなり転倒しにくくなります。



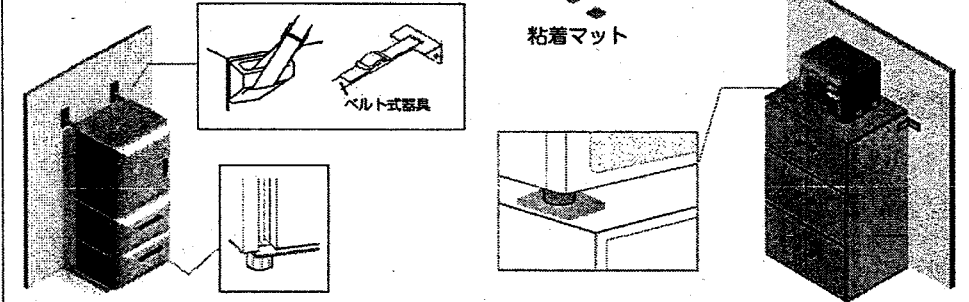
※壁に穴が開けられないなど、やむを得ずL型金具を使用できない場合は、ボール式(つっぱり棒)とストッパー式の器具を併せて使用しましょう。



脚の部分のロックを行うとともに、冷蔵庫の上部をベルトなどで背面の壁と連結することが有効ですが、壁側にネジ止めをする器具の場合は、壁の強度のある部分で行う必要があります。



テレビや電子レンジも固定が必要です。粘着マットを使用した固定が手軽で便利です。ホームセンターや家電量販店等で購入できます。



その他

いざというときに備えて、自分の氏名、住所、緊急連絡先、既往症、かかりつけ病院、普段飲んでいる薬などの情報を事前にまとめておくとう安心です。

※急な病気やけがをした場合に、病院へ行くべきか？救急車を呼ぶべきか？迷ったら東京消防庁救急相談センター(＃7119)に電話で相談できます。

病院？救急車？迷ったら
電話でのご相談の場合は…

東京消防庁救急相談センター
【04員時受付・年中無休】 - フォンコロケーションセンター P119から -

#7119

つながらない場合は… 23区 03-3212-2323
多摩地区 042-521-2323

防火防災診断の「結果のお知らせ」と、この対策のアドバイスを参考にしてこれからも災害に強い安心・安全な生活を送れるよう心がけましょう。

総合的な防火防災診断 予備診断シート

No.	チェック項目		備考
① 属性	1	<input type="checkbox"/> 高齢者のみの世帯（一人暮らしを含む）である。	
	2	<input type="checkbox"/> 要介護度が2以上、障害程度区分が2以上である。	
	3	<input type="checkbox"/> 緊急通報システム等利用者である。	
	4	<input type="checkbox"/> 地域の見守りネットワーク登録者である。	
	5	<input type="checkbox"/> 避難行動要支援者である。	
	6	<input type="checkbox"/> 軽認知などの症状があり、火の取扱いに不安がある。	
② 建物	7	<input type="checkbox"/> 住んでいる建物が、老朽化した木造または防火造の建物である。	
	8	<input type="checkbox"/> 住んでいる建物が、古い長屋または古い共同住宅である。	
	9	<input type="checkbox"/> 住戸の玄関口から屋外へ至るまでの避難経路が内廊下である。	
③ 生活習慣	10	<input type="checkbox"/> 寝たばこをする習慣がある。	
		<input type="checkbox"/> 吸殻の廃棄状況が悪い。	
	11	<input type="checkbox"/> ストープの近くに燃えやすいものを置いている。	
		<input type="checkbox"/> 安全ガードを取り外すなど、誤った方法でストーブを使用している。	
	12	<input type="checkbox"/> コンロの周りに燃えやすいものを置いている。	
		<input type="checkbox"/> コンロが老朽化している。	
	13	<input type="checkbox"/> 古い電気製品を使い続けている。	
	14	<input type="checkbox"/> 電気配線・コンセントの維持管理状態が悪い。（コンセントにホコリが溜まっている、電気コードが劣化している等）	
	15	<input type="checkbox"/> 仏壇のろうそくに火をつける等、マッチやライター等により裸火を使う習慣がある。	
	16	<input type="checkbox"/> 住宅用火災警報器がついていない。	
17	<input type="checkbox"/> 室内が雑然としている。		
18	<input type="checkbox"/> 寝室に大きな家具類があるが、固定されていない。		
19	<input type="checkbox"/> エアコンがない、または、夏場、部屋の風通しが悪く室温が高い。		
④ その他	20	<input type="checkbox"/> その他、福祉関係機関の立場から防火防災診断を実施することが望まれる世帯	

※（総合的な防火防災診断が必要な世帯としての抽出の目安）

- ・「①属性」No.1～6のいずれかに属すること。
- ・「②建物」「③生活習慣」「④その他福祉関係者が実施を望むもの」No.7～20の各項目の中で、全部で3つ以上に該当する事項があるもの